

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名		どれみ	
○保護者評価実施期間	2025年 12月 15日		～ 2025年 12月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26世帯 (29名)	(回答者数) 20名
○従業者評価実施期間	2025年 12月 15日		～ 2025年 12月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 27日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや 意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	当事者目線での療育や保護者との情報共有を幅広く行う為、障がいがある子を持つ親を積極的に採用している。また、職員の90%が主婦で、当事者目線・親目線でより家庭に寄り添った支援が行える。	本人の特性は勿論、性格や家族構成など様々な視点から捉え、今だけではなく将来を見据えた支援・工夫を保護者と同じ方向性で一緒に取り組める様に関係作りを行っている。	子ども達がない平日午前中は、保護者に解放し、いつでも来所できるよう必要に応じてアナウンスしている。療育の相談だけでなく時には雑談などプライベートな話も共有する事で保護者との距離感を縮め、保護者の気持ちに寄り添う療育を行っている。
2	進学や卒業後の進路を見据えた切れ目のない支援体制を整えている。子ども達の現在だけでなく、将来の社会生活を見据えた一貫した支援・アドバイスが可能。	進学・就労も見据えて自分を客観視し、苦手なことにもチャレンジできる力を養いながら、事業所として豊富な知識と福祉におけるネットワークで進路選択への不安軽減に努めている。	各教科に特化した職員が在籍し、テスト対策など個別に対応している。また、事業所卒業後も、児童の相談窓口や居場所として機能できるように意識しており、実際に卒業生が当事業所に来所し現利用児と交流する場面も多くみられる。
3	地域のネットワークに繋がりががあるので、地域との橋渡しを行える。	地域のイベントに参加したり、共同イベントを企画し地域に根差した活動を子ども達と一緒にしている。	地域の子どもの交流も積極的に行っている。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や 工夫が必要な点等
1	事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化されていない。	送迎車・療育スペースの広さ・構造など車椅子児等に対応していない。	対応するには建物の改修が必要であるが、居住用賃貸物件であるため、改善が難しい。また、費用面での課題も多い。
2	マニュアルの策定や想定した訓練等は随時行っているが、保護者様には情報が発信できていなかった。	BCPや感染症対応マニュアル等作成し事業所内では共有や研修を行い、保護者には契約時に説明している。また、事業所内での年2回の避難訓練や、地域の防災訓練(年2回)などへの参加も積極的に行っているが、保護者への情報開示・伝え方なども弱く、正しく理解されていない部分も大きい。	訓練後は一斉メールやブログ等で訓練についての情報発信を行う。
3	保護者会等の開催ができていない。	保護者も参加できるイベントを年に数回行っており、保護者同士の交流の場を設けているが、日程と人材の確保が難しく保護者会としての開催は出来ていない。	今後開催できるか検討していく。